



【手法】

地域新電力

洋上風力

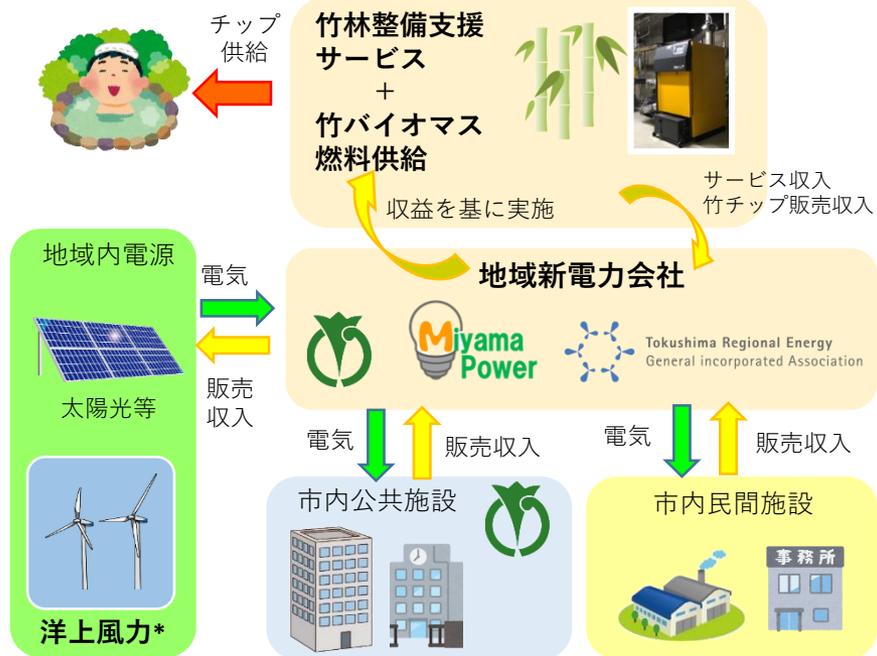
竹バイオマス熱

【目的】

エネルギー-地産地消

竹林整備促進

1. 事業イメージ（目標年度：2030）



*洋上風力については、今次調査ではゾーニング前調査のみ実施しており、今後のゾーニング調査を踏まえ、適切な推進について関係者合意が得られた場合に実現。

◆ 卒FIT電源も活用しつつ地域内の再エネ比率を向上させ、CO2削減に寄与。洋上風力による再エネ大量導入の可能性も視野。

◆ 地域新電力会社によって地域内経済循環を促進。公共施設等の電気代削減も期待。

◆ 収益による地域課題解決として竹林整備促進と竹バイオマス（竹チップ）燃料供給事業を展開。タケノコ生産性向上や竹チップ販売による収入も少額ながら期待。

2. 事業概要

【目的】 再エネを地域で地産地消するビジネスモデルの構築

【手段】 地域新電力を立ち上げ、収益を基に竹林整備支援を実施し、竹バイオマス燃料を市営温泉等へ供給

【特徴】 電気代の地域内循環のみならず、収益により地域課題の竹の伐採促進を図るとともに、竹チップ燃料活用による熱の地域内循環を図るモデル

3. 事業効果（目標年度：2030、基準年度：2018）

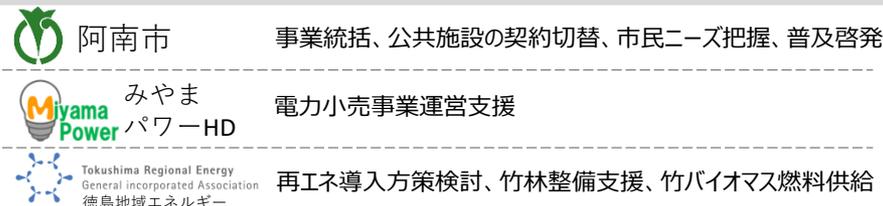
【二酸化炭素排出削減効果】 700 t-CO2/年

【再生可能エネルギー利用量】 電力 3,807 MWh/年、熱 781,200 MJ/年

【地域経済付加価値】 9,300万円/年

【行政コスト削減】 公共施設電力料金 2,800万円/年削減
公共施設熱料金 119万円/年削減

4. 事業体制



5. 事業スケジュール

★基準年度（現在） 2018	2019	2020	★目標年度 2030
▲ FS調査	▲ 関係者調整 出資者協議 会社設立準備 竹バイオマス実証 洋上風力ゾーニング*	▲ 地域新電力会社設立 公共施設電力供給開始 竹林整備サービス・ 竹バイオマス燃料供給開始 洋上風力ゾーニング*	▲ 新電力事業安定化 洋上風力発電開始*



別紙

【手法】

地域新電力

洋上風力

竹バイオマス熱

【目的】

エネルギー-地産地消

竹林整備促進

①自治体の基礎情報

【規模】

人口：73,887人（平成30年6月1日時点）、世帯数：30,886世帯（平成30年6月1日時点）

歳入：390億円（平成30年度一般会計予算）、面積：279.4km²（平成30年6月1日時点）

【立地】

徳島県東部の中央海岸線に位置し、東は紀伊水道、南は太平洋に臨み、西は四国山系の山地と沖積平野からなる。臨海部には発光ダイオード生産の世界一を担う企業をはじめとする工業開発団地を有する。

徳島空港まで車で60分

【産業構造】

市内総生産の経済活動別構成比 ※市内総生産（名目）2兆9,145億円（平成27年度）

製造業26.9%、卸売・小売業4.4%、専門・科学技術サービス業2.1%、不動産業9.1%、公務2.9%、保健衛生5.8%、金融・保険業2.4%、その他サービス業2.8%、情報通信業1.4%、教育4.1%、建設業5.3%、その他2.8%

②各主体の参画理由

【阿南市】

未利用地域資源や卒FIT電源の活用も含めた再生可能エネルギーの実質的な地産地消と地域内経済循環力の強化を図り、「阿南市環境保全率先行動計画（区域施策編）」の目標達成を図りたい。

また、地域課題となっている竹林の整備促進により、タケノコの生産性向上や農産物への獣害抑制につなげたい。

【みやまパワーHD】

日本初の自治体新電力会社「みやまスマートエネルギー」の創設を始め、みやま市以外の自治体でも多様な地域の特性に合わせた特徴ある地域振興・雇用創出モデルを提案してきた経緯を活かし、阿南市の竹林課題解決等への利益還元を核とした地域新電力を立ち上げたい。

【徳島地域エネルギー】

地域主導型の再エネ導入（電気、熱）の拡大と地域内経済循環による地域活性化を実現したい。竹バイオマスの燃料化手法を確立したい。